

北海道教育委員会教育長 様

北海道本別高等学校長 松 田 素 寛

1 本年度の重点目標

- (1) 教科・科目の授業や探究活動を通して、問題解決能力、創造力、主体的行動力の育成を図る
- (2) 学習評価に関する研究を推進し、指導と評価の一体化を図る
- (3) 進路意識の高揚を図り、主体的に進路探究に取り組む態度の育成を図る
- (4) 教育課程全般を通して、協働力、コミュニケーション能力、遂行力の育成を図る
- (5) 生徒が安心して学べる環境の維持に努める

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の現状と課題及び教育改革の動向等を踏まえた学校経営方針及び目指す学校像を示し、教職員の共通理解の促進に努めた。</li> <li>○校内研修を実施して各教科毎の学習評価の方向性を示した。</li> <li>○生徒個々の進路実現に向けた個別指導、模試の事前事後指導、「まなびの部屋」の活用や通信など、主体的な学びに向けた取り組みを促す取組により、進路結果につなげる必要がある。</li> <li>○教職員が全生徒の状況について、情報共有し、困り感を抱えている生徒に対して、保護者、SC及び関係機関と連携し支援した。</li> <li>●コミュニティ・スクール地域コーディネーターの地域と学校を繋ぐ役割が重要であることから、人材の確保と役割の明確化を推進し、協働体制を強化する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概ね適正に評価されている。</li> <li>・総合的な探究の時間「とちち創生学」の取組は、新たな課題設定が発展的で素晴らしい。この取組によって確実に力が付いている。</li> <li>・情報発信については、ホームページ掲載以外の方法を考える必要がある。広報誌への各種事業の掲載や折り込みなど、町民が触れる機会の多い媒体を有効活用するとよい。</li> <li>・探究活動の他にも、コーディネート機能が必要な事業がある。各種機関との日常的な連携が必要である。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した活動(コミュニティ・スクールの3部会や地域連携協力校)への理解を図りながらの高校の魅力化・特色化の推進</li> <li>・学校規模に応じた教育活動の実施(外部指導者、学習支援員、CS推進員の雇用と活用)</li> <li>・学校HPや学校通信「燦々と燃ゆる陽」での広報活動を継続</li> <li>・学習評価の適切な実施と再検討</li> <li>・模試の事前事後指導、「まなびの部屋」の活用や通信などによる取り組みの活性化</li> <li>・コミュニティ・スクールや地域の関係機関との情報共有、活用と支援</li> <li>●CSコーディネーターによる地域と学校を繋ぐ役割の強化</li> </ul>	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症に係る欠席生徒への授業配信など学びの保障を実施した。</li> <li>○基礎的・基本的な知識を習得させる個別指導を行うなど、一人ひとりの生徒の学習状況を捉えながら指導が進めている。</li> <li>○ICTを活用した授業が一部の教科から全体へと広がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概ね適正に評価されている。</li> <li>・英語教育に関しては、小学校低学年時からの取組とその継続性が重要である。英語に親しむ環境づくりを町教委と連携して取り組む必要がある。</li> <li>・町教委の人的支援が教育活動を支えている。次年度の探究テーマも非常に興味</li> </ul>

	<p>○継続して探究コーチの支援を得て成果をあげているが、より地域と密着した活動となるよう令和5年度の計画をしている。</p> <p>●令和4年度、十勝管内で唯一国内研修代替措置を実施した。参加者希望者が2年生10名と低調であったが、参加した生徒にはよい学びの機会となった。</p>	<p>深いものとなっている。活動を継続してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内代替研修は、非常によい取組である。英語を話すことで世界が広がることを実感でき貴重な機会となっている。</li> </ul>
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の適切な管理と恒常的な検証</li> <li>授業研究と授業実践の公開（魅力ある授業展開）</li> <li>B Y O Dに伴い、I C T活用の促進と個別最適な学びの推進</li> <li>年間計画に基づく確実な実施と探究コーチの支援</li> <li>●海外研修実施の決定・周知・応募期間等を工夫し、さらに授業など多くの機会を通じ研修の意義や目的を伝え、積極的参加を働きかける。</li> </ul>	
<p>生徒指導</p>	<p>○集会時における生徒指導部による講話や、生徒指導部だよりなどにより自己指導力の育成が行われている。</p> <p>○S Cとの連携を図った教育相談をもとに教育支援委員会がなされ、生徒理解の促進及び適切な支援がなされている。</p> <p>○いじめ防止基本方針に則り、いじめ防止対策委員会を開催するとともに、職員全体で情報共有するなどいじめや問題行動等の防止に努めた。</p> <p>○学校祭では限定一般公開や3学年合同の演劇、クラスによる合唱など実施したり、体育大会などコロナ感染症対策を講じながら、生徒の主体的な活動がなされた。</p> <p>○帯広柏葉高校との生徒会交流会を12月、2月、3月に実施するなど自主的な活動がなされた。</p> <p>○コロナ対応、長期休業中の生活など安全行動に関する注意喚起のほか、生活全般の注意を促す文書をHPに掲載したり配付するなど、家庭との連携を図り事故防止に努めた。</p> <p>○教員や外部指導者の協力のもと、生徒会、HRや部活動などが行われており、生徒の自主的・自発的な活動が促されている。</p>	<p>○概ね適正に評価されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ等の不安がなく、生徒が安心して学校生活を送れていることは高く評価できる。</li> <li>生徒の活躍を外部へ発信したり、生徒が外部へ出ていく機会を増やすようにしてほしい。</li> <li>地域連携特例校となり、講習をはじめ、多くの活動・交流がなされており、評価できる。今後も継続してほしい。</li> <li>生徒、教職員ともに安全に対する意識が高い。</li> <li>運動部を「オール部」という形で季節ごとに別のスポーツをするような、新たな部活動のあり方を模索してもよいのではないか。</li> <li>部活動など、あらゆる教育活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を高めたり、いじめ防止になっている。</li> </ul>
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒情報の共有化、関係機関や家庭と連携した継続的な生徒理解と支援</li> <li>S Cや外部の関係機関との連携と教育相談の体制の強化（定期的な教育支援委員会）</li> <li>いじめ防止基本方針に基づいた指導の徹底</li> <li>主体性を育む生徒会活動の実践</li> <li>令和5年度は学校祭の交流等の検討</li> <li>継続して生徒事故に対する自己指導能力の育成</li> <li>●部活動外部指導員の人材確保と連携（人材確保に係る関係機関との連携）</li> </ul>	
<p>進路指導</p>	<p>○進路に対応した個別指導がなされており、更に、進路情報についての提供に努めた。</p> <p>○就職・進学ガイダンスに積極的に参加を促すなど就職指導の充実を努めた。</p> <p>●進路希望に応じた指導体制の充実を図っていく必要がある。</p>	<p>○概ね適正に評価されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校との進路活動をはじめとする連携活動は、他町村では他に類を見ないほど密接である。高校生と交流したり進路学習で話を聞いたりすることで、小中学生は高校をイメージできるものである。</li> <li>生徒の進学先、就職先により意味で変化が見られる。</li> </ul>
<p>・キャリア教育の全体計画の作成と計画に基づいた取組の推進（総合的な探究の時間、特</p>		

改善方策	別活動及び教科・科目との連携の検討) ・定期的な進路希望把握と指導の一体化 ●主体的な学びを促すため、模試の事前事後指導、ICTの活用、放課後の「まなびの部屋」の活用などによる個別支援の充実	
健康・安全指導	○学校保健委員会を定期的に設け、学校医から助言をもとに、感染対策を実施した。 ○不登校など困り感を抱えている生徒への対応を、教育支援委員会で情報共有し、全教職員で対応するなど支援を継続し、安心・安全な教育活動の実施に努めた。 ○体育的行事の充実、部活動や同好会など課外活動の促進、運動に親しみ体力の向上や、協働的な活動を一層充実させる必要がある。	○概ね適正に評価されている。 ・町内関係機関との連携により、生徒の状況把握が可能となるため、情報交換を行いながら指導を継続してほしい。 ・週に2回程度の活動とし地域人材が関わりやすい環境にするなど、部活動等のあり方について持続可能な形を探ることも必要である。
改善方策	・新型コロナウイルス感染症予防の感染対策の実施 ・保健・安全計画及び個別の指導計画の周知徹底 ・体育健康や各種活動に関する情報提供、各部活動・同好会の充実など取組の工夫 ●不定期な面談や外部機関との連携など、学校全体で困り感を抱えている生徒などへの継続的な指導	
公表	・ホームページで公表する。 ・PTA総会、学校運営協議会で公表する。	

### 3 添付資料

- ・令和4年度 北海道本別高等学校 学校評価結果一覧（前期対比）
- ・令和4年度 北海道本別高等学校 評価のまとめ